

[成果情報名]西湖におけるクニマス資源の動向

[要約]平成 27 年秋ヒメマス釣り解禁期を基準とした西湖のクニマス資源数を推定した。平成 24 年秋から 4 年間の推定結果について、成熟可能年齢の構成の変化を参考に、クニマス資源の現状について検討した。

[担当]山梨県水産技術センター・青柳敏裕

[分類]研究・参考

[背景・ねらい]

これまでの調査からクニマスの生態、生息規模が明らかになりつつある。クニマスの保全を図るには、産卵環境の保全や資源動向の評価が必要である。そこで、クニマス資源動向についてモニタリング調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

1. クニマスの推定資源量は 4 年連続で前年を下回り、減少の可能性が高いと考えられた（図 1）。
2. 推定資源量は減少したものの、H28 秋採集標本のクニマスの比率が過去 2 年より改善し、また過去 2 年確認できなかった大型のクニマスが認められた。
3. また、資源調査時のクニマスの平均釣果も、前年と同じ 0.2 尾/人・時間で、釣れ具合に変化がなかった（図 3）。

[成果の活用上の留意点]

クニマスの保全を図るため、今後もモニタリングを継続し、資源の動向に注意を払う必要がある。

[期待される効果]

クニマスの資源生態及び生息環境の解明によるクニマス保全と漁業との共存

[具体的データ]

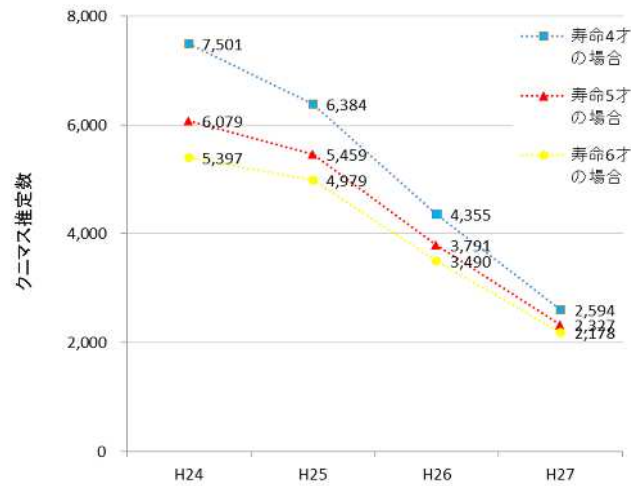


図1 クニマスの推定資源尾数

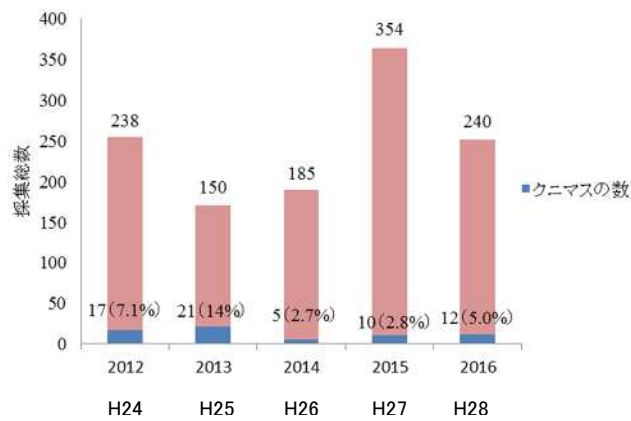


図2 資源調査釣獲クニマスの年令組成と釣獲比率

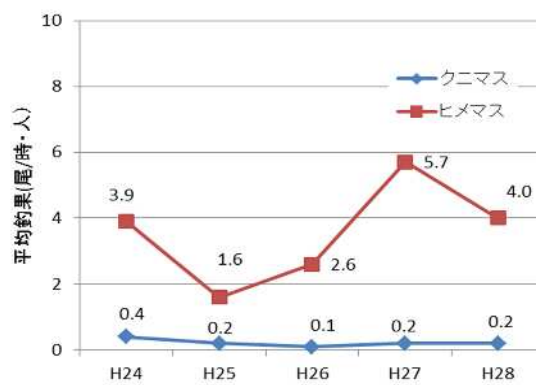


図3 資源調査時の平均釣果

[その他]

研究課題名：クニマスの保全並びに活用に関する研究
 予算区分：県単（総理研）
 研究期間：2015～2017年度
 研究担当者：青柳敏裕